

家庭学習における主体的な学びを支援する e 学習カードの開発

Development of an Electronic Learning-card to Promote Student Proactive Learning in Home Learning

長野 里音^{*1}, 古澤 未菜^{*1}, 丸山 浩平^{*1}, 森本 康彦^{*1}
Rio NAGANO^{*1}, Mina FURUSAWA^{*1}, Kohei MARUYAMA^{*1}, Yasuhiko MORIMOTO^{*1}

^{*1}東京学芸大学

^{*1}Tokyo Gakugei University

Email: m228121f@st.u-gakugei.ac.jp

あらまし：観点別学習状況の評価の1つの観点である「主体的に学習に取り組む態度」は、学校だけでなく家庭における学びも継続してその状況を見取る必要がある。特に、家庭学習では、支援者がいないため、学習を調整しながら粘り強く取り組んだり、自分の成長を把握したりすることが難しく、何かしらの支援が必要となる。そこで、本研究では、家庭学習における主体的な学びの支援を目的に、電子的な学習カード「e学習カード」を開発し、その効果を検証する。本稿では、e学習カードの開発について述べた。

キーワード：主体的に学習に取り組む態度、自己調整、家庭学習、主体的な学び、学習カード

1. はじめに

新学習指導要領では、児童生徒の資質・能力の育成のために、特に、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の実現が重要視されている⁽¹⁾。このことについて、観点別学習状況の評価では、「主体的に学習に取り組む態度」として評価することとされており、これは「自らの学習を調整しようとする側面」と「粘り強い取組を行おうとする側面」で整理されており、児童生徒が自らの学習の目標をもって、進め方を見直しながら学習を進めていく過程を、それぞれの側面から把握し、評価、支援していくことが求められている⁽²⁾。このような過程や側面は、1時間の授業における挙手の回数で捉えたり、学期末にまとめて捉えたりするものではなく、単元や題材などの内容のまとまりの中で捉えることとされており、児童生徒の学校での学びとともに家庭学習での学びを含めて捉えることが必要とされている⁽³⁾。

しかし、家庭学習においては、与えられた宿題に終始してしまい、児童生徒が見通しをもって、学びを調整しながら学習を進めることが難しく（**問題点1**）、教員等の支援者がいないために、粘り強く学習を進めていくことが難しい（**問題点2**）。

一方、近年、GIGA スクール構想の実現に向けて、ICT 環境の整備が急速に進んできたことから、1人1台端末に蓄積される学習記録データから、児童生徒1人1人の家庭学習をはじめとした授業外での学習状況を把握することが容易になってきており、このための学習記録データの活用方法の検討が進められてきている。個別学習における学習記録データを活用した学びの支援の例として、佐々木ら（2021）は、振り返ったことを蓄積しながら学習に取り組み、成長した（できなかったことができるようになったこと）点を可視化することで、見通しを持ち、学習者が粘り強く取り組み、自身の成長を実感させることを促すことを明らかにしている⁽⁴⁾。

つまり、家庭学習における学習記録データをうまく蓄積、活用することで、児童生徒の主体的に学習に取り組む態度を把握しやすくさせ、主体的な学びを支援することができるのではないかと考えられる。

そこで本研究では、家庭学習において主体的に取り組むための支援をすることを目的に、電子的な学習カード「e学習カード」の開発を行う。

2. 家庭学習における主体的な学びを支援するためのアプローチ

家庭学習における主体的な学びを支援するための要件として、以下を満たすことが求められる。

要件1：自らの学習について見通しをもち、学習状況を把握しながら、自らの学習を調整することを支援できること（**問題点1**に対応）。

要件2：自らの成長や変容について把握しながら、粘り強く取り組むことを支援できること（**問題点2**に対応）。

要件を満たすためのアプローチとして、本研究では、学習状況を把握する方法としての学習カードに着目する。学習カードは、一般的に、授業の目標・めあて、取り組んだ内容、その評価・振り返りが記録されている。この学習カードを、学習前、学習後の適当なタイミングで記録、見返したりすることで、自らの学びを記録、把握しつつ、学びを調整していくことができるようになる効果がある。さらに、この学習カードを電子的に扱うことで、項目の内容を電子的に扱え、内容に応じた可視化や、条件に応じた動的な表示内容の分岐が可能になる。

つまり、家庭学習において、取り組んだ記録を記入する項目の他に、取り組もうとする学習の見通しと調整の理由を記入する項目を配置し、これらの項目から自らの学びを調整している状況を可視化することで、**要件1**の達成が期待できる。また、学習を通して新しくできるようになったことと、学習が終わった後の次回の学びに向けた見通しを記入する項目と、学習のひとまとまりが終わった後の総括的な振り返りを記入する項目を配置し、これらの項目から自らの成長や変容の状況を可視化することで、**要件2**の達成が期待できる。

2.1 家庭学習における主体的な学びを支援する e 学習カード

そこで、本研究では、要件を満たす、家庭学習における電子的な学習カード「e学習カード」の開発を

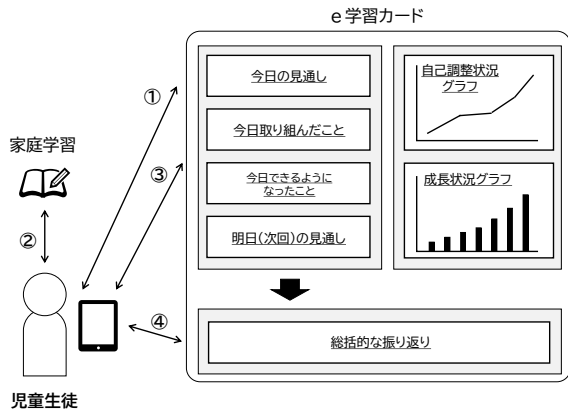


図1 主体的な学びを支援するe学習カードのイメージ

試みる。具体的には、このe学習カードを、以下の①～④の流れで、学習に取り組む前、取り組んだ後に用いていくことで、家庭学習における主体的な学びを支援する(図1)。

- ①前回立てた見通しや振り返りの記述と、現在の学習状況から、今回の取り組みを考え、e学習カードに取り組む問題数と調整した理由を記述する。
- ②見通しをもとに問題演習に取り組む、取り組んだ問題数をe学習カードに記入する。また、新たにできるようになった問題を数えて記入する。
- ③今回の調整や見通し、取り組んだ数や新たにできるようになったことをもとに、自身の学び方について振り返ったことを記述し、次回取り組む問題数をe学習カードに記入する。
- ④ある程度のまとまりで、自己調整や新たにできるようになったことの可視化、振り返りの記述を見て自身の学び方を大きく振り返り、次の学びにどう活かしていくかをe学習カードに記述する。

3. e学習カードの開発

前章で提案したe学習カードは、Excel等のファイルで実装する方法と、Webアプリケーションで実装する方法が考えられるが、本研究では、Excelファイル上で実装した(図2)。具体的には、Excelシートの中に、学習カードとして記入する項目とそれらの項目を用いて可視化したグラフを配置した。配置した項目とグラフは、以下のとおりとした。

項目1) 調整・見通しの項目：前回立てた次回の調整・見通しの項目と現在の学習状況を確認、調整し、今回の見通し(取り組む問題の数)と、そのように決めた理由を記入する項目。また、今回の家庭学習が終わって振り返った後に、次回へ向けた見通しを記入する項目。

項目2) 取り組んだ項目：見通しをもとに、実際に取り組んだ問題数と、できなかったことができるようになった問題数を記入する項目。

項目3) 振り返りの項目：今回の家庭学習について、記入した項目について見返しながら、学びを振り返って記入する項目。

項目4) 総括的な振り返りの項目：学習のひとまとまりが終わった後(2週間後や、単元等の内容が終わった後など)に行う、総括的な振り返りを記入する項目。



図2 e学習カードの実装イメージ

グラフ1) 自己調整可視化グラフ：学びの自己調整を行った回数を積み上げグラフで可視化する。学びの自己調整を行った回数は、毎回の家庭学習に取り組む前に記入する**項目1**の記入が完了した時に1ずつカウントアップされていく。

グラフ2) 成長可視化グラフ：できなかったことができるようになった数を、その日できるようになった数は棒グラフで、その日までの累積の数を折れ線グラフで可視化する。これらは、**項目2**で入力された数をもとにグラフ化する。

この実装により、**項目1**の今回の家庭学習で取り組む問題数や、**項目2**のできなかったことができるようになった数を、継続的に記録することができるようになり、これらの項目を用いて、自己調整を行った状況や、成長した状況を可視化することができるようになる。記入した項目と可視化されたグラフを確認することで、自身の学習状況を把握して、学びを調整することや、粘り強く取り組むことを促すことが期待でき、**要件1, 2**の達成が期待される。

4. おわりに

本稿では、家庭学習において学習者が主体的に取り組むための支援をすることを目的に、e学習カードの開発を行った。今後は、開発したe学習カードを用いた小学校現場の家庭学習における実践を行い、その効果について分析・評価を行っていく。

謝辞

本研究の一部は、科研費(20K03174)の助成を受けた。

参考文献

- (1) 文部科学省：“小学校学習指導要領解説(平成30年告示)総則編”，東洋館出版社，東京(2018)
- (2) 文部科学省：“児童生徒の学習評価の在り方について(報告)”，https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2019/04/17/1415602_1_1_1.pdf(参照：2022.5.31)
- (3) 文部科学省：“学校の授業における学習活動の重点化に係る留意事項等について(通知)”，https://www.mext.go.jp/content/20200605-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf(参照：2022.5.31)
- (4) 佐々木さや香, 芝本隆也, 高村浩輝, 森本康彦：“学習者の学びの振り返りを支援する問題演習システムの開発”，日本教育工学会論文誌45(Suppl.), pp.85-88(2021)